



国交省におけるスランプ値見直しの背景

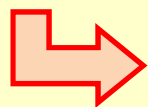
- 鉄筋コンクリート構造物の耐震設計の見直しにより配筋が高密度化
⇒スランプ「8cm」では、打設効率が低下やコンクリートの充填不足による品質低下が懸念
- 工事発注時のスランプ値は「8cm」がほとんど
⇒スランプ値の変更にあたっては、受発注者協議により施工承諾で実施しているのが実情
- 近年、化学混和剤が一般化し、多様な混和剤が開発されている
⇒単位水量を増加させることなく、コンクリートの流動性（スランプ）を調整することが可能



- ★『スランプ規定の見直し』、『契約時におけるスランプ値の取扱いの見直し』等
⇒コンクリートの品質を確保したうえで生産性向上を図る。
- ★直轄工事において、品質に問題が無いことを確認できたことから、スランプ12cmを原則化

大分県の取扱い

- ①国交省において、スランプ12cmを原則化し、品質に問題がない。
- ②現場の生産性向上への効果が期待できる。



一般的な鉄筋コンクリート構造物において、スランプは『12cm』を標準として積算し発注

<令和5年4月15日以降起案する工事より適用>

(例)流動性を高めた現場打ちコンクリート活用

スランプ値8cm→12cm



鉄筋構造物におけるスランプ値の見直し(8cm→12cm)



コンクリート構造物の設計基準強度と生コンクリート使用基準の選定表の見直し

無筋・鉄筋別	区分番号	適用工種	許容曲げ圧縮応力度 σ_{ca} kgf/cm ²	設計基準強度 σ_{ck} kgf/cm ²	設計仕様書			最大水セメント比 W/C %	最小セメント量 C kg/m ³	セメントの種類	備考	
					生コン呼び強度 N/mm ²	最大骨材寸法 MS m/m	スランプ sl cm					
鉄筋コンクリート	⑦	RC橋	場所打床版橋		8	24	24	20	60	—	普通セメント	
	⑧	PC桁	ポストテンション	T桁橋	18.0	40	40	20	55	—	早強セメント	注) 7, 8
				横桁・間詰床版	14.0	30	30	20	50	—	〃	
				箱桁橋	16.0	36	36	20	50	—	〃	
				中空床版橋	16.0	36	36	20	50	—	〃	
			プレテンション	横桁・間詰床版	14.0	30	30	20	50	—	〃	
				床版橋の間詰	14.0	30	30	20	50	—	〃	
			プレキャストセグメント桁橋	18.0	40	40	20	50	—	〃	現地製作	
	⑨	床版	PC合成桁	RC床版	8.0	24	24	20	55	—	普通セメント	
				PC(合成)床版	8.5	30	30	20	55	—	〃	
			鋼非合成桁	RC床版	8.0	24	24	20	55	—	〃	
			鋼合成桁	RC床版	9.0	27	27	20	55	—	〃	
				PC床版	8.5	30	30	20	55	—	〃	
	⑩		地覆・壁高欄	8.0	24	24	20	55	—	普通セメントまたは、高炉セメント(高炉B以上)	注) 9	
	⑪		堰・水門・ポンプ場	7.0	24	24	20,40	55	—	高炉セメント(高炉B以上)		
	⑫		樋門・樋管	7.0	24	24	20,40	55	—	〃		
⑬		橋梁下部工(踏掛版含む)	8.0	24	24	20	55	—	〃			
⑭		潜函・函渠・擁壁・井筒	8.0	24	24	20,40	55	—	〃	注) 10		
⑮	場所打杭	大気中：深礎工	7.0	24	24	20,40	55	—	〃	注) 11		
⑯		海岸構造物 (水門・堰・樋門など耐久性を考慮する場合)	7.0	21	24	20,40	55	—	〃	注) 4		

「※」について

○スランプは、12cmを標準として、部材の断面形状や寸法、鋼材の配置状況、施工性を踏まえ、打込の最小スランプを考慮して適切に設定する。

○スランプ設定の際は、「2017年制定 コンクリート標準示方書(施工編)」の「打込みの最小スランプの目安」及び「九州地区における土木コンクリート構造物設計・施工指針(案)」を参考とする。